



小柳よしふみの豪雨災害被災地での活動

被害の大きかった広島市安芸区で支援活動を行いました。内容は土砂の除去作業。支援が必要なお宅は500世帯ほどあるのにも関わらず、ボランティアの数が全く追いつかない状況です。ボランティアセンターの収容能力もあり、受け入れ数に限界があるのも要因です。特にサテライトのボランティアセンターにおいては、その傾向が顕著です。完全な復旧にはまだまだ時間を要します。多くの支援、人力が必要です。災害は突然やってきます。いかに平素から準備が出来ているかが重要であることを痛感します。本市においても、各家庭、地域、行政における現実的な備えを、しっかりと検討して行かねばなりません。

小柳よしふみの地域活動



西日本豪雨災害支援の募金活動

現地へ行けない方も参加できる支援です。



地域の夏祭り

地域コミュニティは、いざという時の大きな支えになります。連合渡御のメを仰せつかりました。



ラジオと野にゲスト出演

地域ラジオでの発信は、良い経験となりました。



道路環境改善@あさひ通り
小さな段差やデコボコがあり歩にくい道でしたが、道路舗装で歩きやすくなりました。



マラソンイベント Challenge2020

めざせ！世界記録。
毎日誰かがフルマラソンに参加。

ご来場をお待ちしております！

第29回 市政報告会

クイーンズ伊勢丹 3F
入場無料

日時：平成30年 **8月26日(日)**
18:30～19:45

会場：北浦和カルタスホール
第1会議室（北浦和1-7-1）



ごみゼロ運動

市内一斉に行われる美化運動に、毎回参加しております。

ご意見・ご要望をお聞かせください

お名前

ご住所

TEL



「後援会イベントでハイ、チーズ！」

市政へのご要望・ご質問は

小柳よしふみ 事務所

E-mail info@koyanagi.jp

ホームページ <http://koyanagi.jp/>

ブログ <http://ameblo.jp/y-koyanagi/>

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F

TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233



こやなぎ

小柳よしふみ

小柳よしふみ 事務所 〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233
E-mail info@koyanagi.jp ホームページ <http://koyanagi.jp/> ブログ <http://ameblo.jp/y-koyanagi/>

小柳よしふみ
市政レポート
2018.8 vol.31

浦和っ子

さいたま市が文教都市として輝くために

～教育、スポーツ、文化行政、災害対策の充実を～

暑い日が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？熊谷市では、41.1度という日本最高気温の更新など、全国的な厳しい暑さとなっています。睡眠、水分をしっかりとるなど、熱中症にご注意いただき、無理のないようお過ごしください。

この夏は、暑いだけでなく自然災害も続いています。6月に起こった最大震度6弱を記録した大阪北部地震においては、学校のブロック塀の下敷きになって小学生が亡くなるなどの被害があり（関連記事中面右下）、7月上旬には、7月上旬には、西日本豪雨により、広島県や岡山県などいまだ復旧にはほど遠い地域もあります。さいたま市は、被災地での給水支援や保健士、事務職員の派遣をするなどの支援を行っています。小柳よしふみも広島市での復旧ボランティア活動をしてまいりました。現地は厳しい状況で、長期的な支援が必要です（関連記事裏面）。犠牲になった方々のご冥福をお祈りするとともに、一日も早い復旧、復興に向けた支援も続けてまいります。

さて、本年度6月定例会より、文教委員会の所属となりました。教育、スポーツ、文化行政などが所管となります。さいたま市が、文教都市としてますます発展するよう、取り組んでまいります。また、自転車条例制定のプロジェクトチームに参加しておりましたが、今定例会で条例の制定となりました（関連記事中面右下）。「最高の日常が楽しめるさいたま市」であるように、議会でも地域においても、しっかり活動してまいります。

まだまだ暑い時期は続きます。皆さまにおかれましては、どうかご自愛いただきますよう、お祈り申し上げます。



- 昭和40年(1965年)8月27日生まれ A型
- 浦和市立高砂小、岸中、県立浦和高、慶應義塾大学商学部卒業。
- 埼玉銀行を経て、警備会社を経営。平成23年よりさいたま市議会議員(浦和区)。
- 平成27年 浦和区にて第1位当選(2期目)。
- 文教委員会 / 決算特別委員会
オリンピック・パラリンピック競技大会支援特別委員会
自転車条例プロジェクトチーム

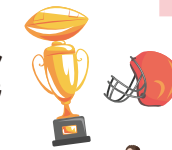


毎月第3日曜16時から浦和駅東西口駅頭でお伝えしています。

TOPICS

2019ラグビーワールドカップ キャンプ地にロシア代表

公認キャンプ地となっている本市には、ロシア代表が来ることに変更となった。レッズランド内をラグビーランドとして整備中。



「ふるさと応援」寄附で さいたまクリテリウム観戦

さいたま市外に住民票を有し、2万円以上のさいたま市「ふるさと応援」寄附者が対象。金額により4種別あり、募集口数も限定。会員特典など、詳しくはオフィシャルホームページまで。



西野前監督、槇野、遠藤両選手に さいたま市スポーツ特別功労賞

2018FIFAワールドカップロシア大会に出場した西野朗前監督、槇野智章選手、遠藤航選手に対し、要綱に基づき表彰し、その功績を称えた。西野前監督は旧浦和市出身、両選手は浦和レッズ所属。遠藤航選手はベルギーチームへの移籍が決まっている。



西日本豪雨被災地への 職員派遣による災害支援

被災地である広島県呉市に保健師と業務調整職員、給水車と水道局職員を、岡山県倉敷市に罹災証明発行事務等支援のための職員が派遣されるなど、本市として被災地支援を行っている。



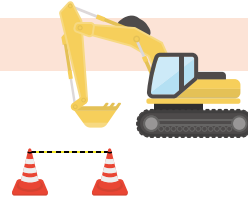
小柳よしふみが 本会議場で 議案質疑を行う!

補正予算議案より

1. 本庁舎耐震補強工事について

Q 追加工事が必要となった理由は?

A 工事が進める中で、当該設計図等に記載されていないアスベストの吹付箇所や配線、配管が確認され、目視による把握にも限界があった。



小柳視点

現在の図面とは精度も違っており、アスベストも当時はふんだんに使われていたために予見が難しい面があったことは認識する。

2. 文化芸術都市創造事業について

Q 国際芸術祭についての評価は、イベント単体ではなく開催されていない年の市民への文化芸術施策を含めたものと考えている。この点の考え方を問う。

A 国際芸術祭は、日頃から市民が文化芸術に触れたい、参加したいという環境づくりが重要と考えている。「文化芸術都市創造基金」を活用して、市民の文化芸術活動を支援することについて、市の計画に位置付け、補助制度の拡充も含めた検討を行っている。

小柳視点

国際芸術祭の目的は、市民の日頃の文化芸術活動が活発に行われることが大切。芸術祭の効果を浸透するためにも開催されない年の施策こそが重要。

3. 思い出の里維持管理(樹林墓地整備)事業について

Q 市の方針では整備困難とされていた市営墓地について、新たに樹林墓地として整備することとなった理由と今後のスケジュールを確認したい。

A 墓地面積の全墓所面積に対する割合についての国の基準について、柔軟な運用が可能ということになった。市民意識調査の結果を踏まえ、本年10月に着工、来年3月完成予定で、関係条例の改正ののち、来年度末の供用開始を目指す。

小柳視点

市民の要望も多く、会派として推進してきた樹林型合葬式墓地の整備が進んだ点を評価する。

一般議案より

4. さいたま市立大宮国際中等教育学校の授業料などの制定について

Q 他の市立高校の授業料との比較や国際バカロレア校認定後の授業料や費用について問う。

A 中等教育学校の高等学校に相当する後期課程の授業料は他の市立高校と同額。バカロレア認定後も変更の予定はない。ただし、高校2、3年生にあたる中等教育学校5、6年生でグローバルコースを選択し、国際バカロレアプログラムを履修する生徒については別途登録費用が必要となる。

小柳視点

国際バカロレア校の認定後は、海外の学校との連携や提携関係なども重要になってくるので、この点についても併せて進めて行く必要がある。ちなみに、前期課程は義務教育のため、授業料・入学金は課さない。



文教委員会より

1. 「さいたま市民会館うらわ」の移転について

Q 移転の意思決定の意味と移転後の新しい市民会館に期待することは?

A 「市民会館うらわ」を浦和駅西口南高砂地区市街地再開発事業の複合ビルへ機能移転することを、昨年9月に市として意思決定をした。現在、新たな「市民会館うらわ」の基本構想の策定を進めている。駅周辺のさらなる賑わい創出による都市機能の向上と、文化芸術都市創造の拠点施設として整備したい。

Q 「市民会館うらわ」の移転後の敷地利用は、どうするのか?

A 文教都市として誇れる文化施設などの公共・公益的な施設用地としての活用を検討する。本年3月にNHKより協議の申し入れがあり、今後協議を開始する。地域に開かれた市民の交流拠点など、賑わいづくりや市民福祉の向上につながる機能の導入を求めて行きたい。

小柳視点

駅前はもとより、市民会館跡地周辺の賑わい創出、文化情報の発信拠点としての活性化をはかり、浦和駅西口が面として発展していくことが重要である。

2. スポーツ環境整備について

Q 限られた財源の中で行政がスポーツ施設を拡充し維持していくのには、限界がある。国がスタジアムアリーナ改革を打ち出しているように、民間力を活用した整備促進が必要と考えるが、見解を問う。

A スポーツ施設整備を進めているが、特に屋内スポーツ施設に関しては市民ニーズに十分応えられていないと認識する。国は、体育館や競技場において官民協働により収益を生み出す対象への転換や、収益性の見込めるスタジアムアリーナなどを活用した、スポーツを核とした街づくりである「スマート・ベニュー」構想を打ち出しており、本市においても重要な視点と考える。

小柳視点

これまでのスポーツ施設は行政がコストを負担して市民へサービスとして提供してきた。今後は、官民協働で、収益を生み出せる施設の利活用を見直して、収益をあげる施設としての位置づけで考えることが必要。



本場ドイツの スポーツシュレを 視察してきました!



本年度の当初予算審査で議論となったスポーツシュレの研究のために、本場ドイツ、オランダの施設を視察して来ました。スポーツシュレとは、地域スポーツ振興の拠点となる「総合スポーツトレーニング研修センター」のことです。本当に素晴らしい施設ばかりでした。いくつものスポーツができ、天然芝のサッカーコートはまぶしく、屋内外のスポーツ施設は管理も行き届いていました。宿泊やミーティングルーム、食事をする場も完備。そこには、スポーツ文化が根付いていました。シュレとは、ドイツ語で学校を意味する言葉です。ハード面のすばらしさに目を奪われがちですが、重要なのはシュレでの育成プログラムや人材の育成や活用のビジョンです。さいたま市では、本年度よりスポーツシュレを整備する方針です。スポーツ医学に傑出した順天堂大学病院の進出の話もありますが、そういったノウハウも活用しながら、地域スポーツ振興のトータルビジョンを明確にすることが成功の鍵だと考えます。

さいたま市 自転車まちづくり 推進条例を制定



小柳よしふみも条例制定プロジェクトチームに参加。高校生のヘルメット着用や押し歩きの推進、災害時の自転車活用などが盛り込まれ、レクリエーションルートの整備促進も明記された。また、市民、事業者、行政などによる自転車のまちづくりを推進するために連携する組織の設置も可能になった。自転車保険が義務化された中、今後は安全な自転車利用をいかに広めて行くのが課題である。

小学校のブロック塀 倒壊事故を受けて

大阪北部地震の際、高槻市の小学校プールのブロック塀の下敷きになり、小学生が犠牲となった。この事故を受けて、本市でも学校、市有施設におけるブロック塀の状況調査が行われた。ブロック塀設置箇所828か所の内、現行法に適合しない疑いのある箇所179、著しい亀裂・破損などがある箇所29であった。今後は、注意告知をするとともに、原則撤去し、必要に応じてフェンスの設置を行う。災害時のブロック塀の危険性を鑑みるに、民間所有のブロック塀についての対策も講じるべきと考える。